

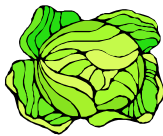
家庭菜園の一年生

この秋“清水農園”を開園しました。農園といっても一区画 30 m²の、田舎言葉で言うところ“猫のひたい”ほどの家庭菜園です。信州の農家に生まれ育った自分は、物心ついたころから高校を卒業し東京に出てくるまで父の農作業を手伝ってきました。水稻の栽培、りんご・梨の果樹からあらゆる種類の野菜を手広くです。ですから、「家庭菜園なんて朝飯前」くらいに思っていたのですが、いざ始めてみると、あまりに狭い土地がゆえに勝手が違うのです。20 区画ほどある周囲を見ると、やはり狭い土地にいろいろな野菜を植え、害虫や野鳥から守るためにと、トンネルの形でカーテンのようなもの(寒冷紗)をかぶせています。お金もかかり実に手の込んだ栽培です。

定年になって、自分もいつかは家庭菜園をやろうとは思ってはいました。でも、忙しくてなかなか踏ん切りがつかなかった。それが高校の同期生がメールで送ってくる家庭菜園での収穫作業の写真や、「わが菜園からです」と、ゴルフコンペに持参したミニトマトのおいしさに刺激を受けて、思いきって始めたのです。暑い夏が終わるころ、我が家から歩いて 10 分ほどの農地を地主と契約しました。苦土石灰を撒き整地を済ませ、晴天の続いた秋分の日には妻と秋野菜の植え付けと種まきの作業にかかったのです。



腐葉土を撒き、畝をつくり種を蒔く。白菜、キャベツ、ブロッコリー、ほうれん草、春菊、大根、サラダ用たまねぎと、これからでも作付けできる秋野菜は意外と多い。最初の 3 種の野菜は苗も各 5 本ずつ買って植えました。苗は野菜また品種にもよりますが 1 本 100 円前後。借地料をはじめ農具や肥料、病害虫の駆除のための用品の費用等を考えると、初めからスーパーで野菜を買ったほうが経済的かもしれません。でも、無農薬の新鮮な野菜が採れるであろうこと、土に親しむ快い疲れ、それに「作る喜び」が採算を度外視させてくれます。これから隣の畑仲間との“野菜づくり談義”も楽しみです。



日曜日の朝のNHK教育テレビで、秋野菜の作り方の番組を組んでいるのにも気がつきました。司会者によれば、家庭菜園に取り組む人口は近年グンと増えつつある、とのこと。自分もその一人に加わったわけです。でもなぜか周囲で農作業をしている半分以上は女性です。きっと旦那も土地契約のときは顔を出したのでしょうか、あとは女房殿任せといったところなのではないでしょうか。せっかくの土の感触と太陽がもったいないなあ！

昔とった杵柄(きねづか)も、スケールが小さすぎる(?)家庭菜園ではなかなか発揮できず残念ですが、収穫の暁には「この人にも」「あの人にも」と、今からおすそ分けの夢を描いている次第。“同業”の皆さん！ アドバイスがありましたらよろしくお願いします。